



第 1226 回例会報告

平成 23 年 6 月 9 日(木) 曇

会長挨拶

会長 長崎政直

お釈迦様

早朝よりお集まりいただき、ありがとうございました。
 12月クリスマス例会の折り、キリストの生誕を祝う会が日本中盛大に行われるのに、私たち日本人の精神、生活の中核に在る仏教の始まりであるお釈迦様の誕生祝いは忘れられがちです。春のお花見例会では、お釈迦様の話を聴きたいものだとお話ししました。
 残念ながらお花見例会は、東日本大震災を受けて中止となり、ちょっと遅れましたが、今朝、その機会を得ることが出来ました。心静かに崇仁住職のお話を聴き、これからの私たちのロータリー生活、活動に生かしていきたいと思います。

◇幹事報告◇

- 本日は例会場に平福寺をお借りしての早朝例会です。準備に努められた方々に厚く御礼申し上げます。文書受領・配布連絡並びに連絡事項
- ① 本日の講師(平福寺住職小林崇仁師)による資料が配布されました。
 - ② 事務局にて受領している文書については次回の報告と致します。
 - ③ 岡谷エコーより3月6日に開催されたIM報告書が配布されました。
 - ④ セブ島支援訪問団(長崎・赤羽・溝口・渡辺・高林・西澤会員)が10日より出発致します。現地NGO・RC・学校等との訪問懇談等を6日間実施致します。現地活動支援金カンパに多くの会員のご協力を得られましたことをご報告し御礼申し上げます。

第 1223 回例会

【ブッダ】釈尊の生涯と教え

平福寺住職 小林崇仁

1、釈尊の生涯—仏教の四大聖地と三法会—

- ①ルンビニー[誕生]
おおよそ2500年前、現在のネパール。カピラバストゥ国

の浄飯王と摩耶夫人の王子として生まれる。
 16歳で結婚、一男子を授かる。
 →降誕会(花まつり)4月8日

- ②ブッダガヤ[成道](さとりを開く)
 快楽に満ちた世俗の生活を厭い、29歳にて出家。
 6年間にわたり、断食など肉体を苦しめる難行苦行に励む。
 スジャータより乳粥の布施を受け、苦行主義と快楽主義を離れた、かたよりのない【中道】に気づき、35歳、菩提樹の下で悟りを得る。
 →成道会12月8日



- ③サールナート[初転法輪](初めての説法)
 説法を躊躇した釈尊であったが、梵天の勧めにより、鹿野苑にて最初の説法を行う。
 その後、竹林精舎や祇園精舎など、主にガンジス川中流域にて約45年の間、布教の旅を続け、人びとに仏教を説く。

■ニコニコ BOX

| | |
|-----|------------|
| 26名 | 21,000円 |
| 累計 | 1,189,000円 |
| 目標額 | 130万円 |
| 達成率 | 91.5% |

■今週のこぼれ

■出席報告

| | |
|------|-------|
| 会員数 | 35名 |
| 出席対象 | 35名 |
| 出席者数 | 26名 |
| 出席率 | 74.3% |
| 前回修正 | 85.7% |

■ 次回のプログラム

6月23日
 臨時総会国際奉仕委員会
 担当例会



④クシナガラ[涅槃]

80歳にて入滅される。

娑羅双樹の間に、頭を北にして、最後の教えを説いて入滅される。

荼毘に付されたご遺骨(舍利)は、各地に配され、塔に祀られる。

→涅槃会(常楽会)2月15日



ブッダの生涯と四大聖地を示す地図

余談 南北朝期の『諏方大明神画詞』には、4月8日、上神宮寺(上社別当寺)での花ノ会 2月15日、下神宮寺(下社別当寺)での常楽会の様子が記されています。法要、舞楽、行列 酒宴があり、盛大な祭事だったようです。

2. 釈尊の教え — スッタニパータより —

①八万四千の法門

仏教の教えには、「八万四千の法門」があるといわれます。人それぞれの資質に合わせて、無数の教えが伝えられているのです。それを極めて単純に分類すると、おおよ次のようになります。

- ・初期仏教 BC500年～ (スッタニパータ)
- ・小乗仏教 BC200年～ (俱舍宗、成実宗、律宗)
- ・大乘仏教 紀元前後～ (法相宗、三論宗、天台宗、華嚴宗、禪宗、浄土宗)
- ・秘密仏教 AD600年～ (真言宗)

2500年前に説かれた【ブッダ】釈尊の教えは、幾多の時代状況を経る中で、アジア各地の文化と相互に影響し合いながら、多様に発展・展開していきました。それはまさに「八万四千の法門」のごとく、奥深いものがあります。

②スッタニパータとは

初期仏教の時代は、まだ「口伝」の段階です。釈尊の教えは、師匠から弟子へと、口伝えで受け継がれてゆき

ました。それがやがて編纂され、いくつかの經典になってゆきます。

スッタニパータは、主に南方(東南アジア)へ伝わった經典のなかでも、古いものとされており、初期仏教の思想などを伝える貴重な經典です。全体で5章に分かれ、1149編の詩から成っています。

③【紹介】「第4章八つの詩句の章・10死ぬよりも前に」

848 「どのように見、どのような戒律をたもつ人が〈安らかである〉と言われるのか？ゴータマ(ブッダ)よ。おたずねしますが、その最上の人のことを私に説いてください。」

849 師は答えた、「死ぬよりも前に、妄執を離れ、過去にこだわることなく、現在においてもくよくよと思いがぐらうことがないならば、かれは(未来に関しても)特に思わすことがない。」〈中略〉

859 世俗の人々、または道の人・バラモンどもが彼を非難して、過(とが)があるというであろうが、彼はその(非難)を特に気にかけることはない。それ故に、かれは論議されても、動揺することがない。

860 聖者は貪(むさぼり)を離れ、慳(ものおし)みすることなく、『自分は勝れたものである』とも、『等しいものである』とも、『自分は劣った者である』とも論ずることがない。彼は分別を受けることのないものであって、妄想分別におもむかない。

861 彼は世間において〈わがもの〉という所有がない。また無所有を嘆くこともない。彼は〔欲望に促(うなが)されて〕諸々の事物に赴くこともない。彼は実に〈平安なる者〉と呼ばれる。

Q. 心の平安はいかにして得られるのか？

A. 「妄執(もうじゆう)」から離れることである。「妄執」とは、「貪瞋痴(とんじんち)」に代表される、無意味なこだわり・執着のことである。

① 貪 … むさぼり、ものおしみ。〈わがもの〉という意識 (860、861)

② 瞋 … いかり。非難への反論、動揺など。(859)

③ 痴 … こだわり。過去、現在、未来。(849) 自分と他人。(860)

これらの「妄執」から離れる人が、ほんとうに〈平安なる者〉である、と説かれています。

※中村元『ブッダのことば—スッタニパータ—』(岩波文庫・1958)より抜粋



本日は、朝6時より恒例の早朝例会を小林聖仁会員の平福寺にて行いました。小林会員ご子息の崇仁住職のわかり易い法話をお聞きし、朝粥の朝食をいただき解散しました。久しぶりに心静かな朝を迎えたのは私だけだったでしょうか